

意見テーマ	意見要旨	市の考え方
市民意見について	市民からの意見はどのように取り入れ、反映されているのか	基本計画策定時には、説明会、ワークショップ、パブリックコメントを実施。その内容はホームページの基本計画本編にはまとめて掲載してある。今年度の実施計画では、懇談会や出前講座等、多くの意見をもらっている。それに関しても精査しながら進めており、懇談会の様子はホームページでも掲載している。意見交換会等の特徴として、若い方が発言をしている。パブリックコメントの結果を見て頂くと分かるが、多様な意見が出ている。市ではひとつひとつ精査しているが、その基準はまちなかにできる図書館として、ふさわしいかどうかである。例えば地域資料なら、まちなかの地域図書館であるから、豊橋駅の整備からまちなかがどう発展してきたかなど、まちなかの歴史資料がふさわしいと考えている。
	説明会が2月、策定が3月末では意見を反映させる期間が短いのではないのか	特に年度で区切るという考え方はない。意見を聞く機会は常にオープンにしている。実施設計の段階で反映させる場合もある。
施設コンセプトについて	「街に広がる図書館」とあるが、外と中とのつながりが分かりづらい	まちなか図書館が街に影響を与えていく、また、まちなか図書館とまちなかの商店等が協力しながら行っていくアイデアを持っている。
	水上ビルとつながる、図書館から広がる、という言葉にはどういう意図があるのか	水上ビルはあと20年はもつと言われていた。リノベーション等を行いながら魅力的なビルになってほしいという思いがある。用水路の上に建つビルという特異性を活かしながら、また、現在行われているアートイベントsebone等との連携を図っていききたいという考え。
動線について	1階から2階への動線は階段のみか1階から確実に分かるようにアクセスを考えてもらいたい	再開発組合と協議を重ねている段階。誰でもアクセスしやすいように、今後実施設計等で詰めていく。
配置について	仕切られた場所がないように見えるが、学生はどこで勉強するのか	グローアップゾーンは、若者のための場所じゃなくても良い場所等仕切りを設ける予定。5つのゾーンに分けてはいるが、誰がどこを使ってもよいものと考えている。
	アクティブゾーンにキッズスペースがあるが、どんな場所か	こども未来館にも図書館があり、そのすみ分けを考える必要がある。現在、キッズスペースは南の日当たりのよい場所を考えている。
管理運営の考え方について	開館してからの体制はどのように考えているか	図書館部門とまちづくり部門が連携して行うことになると思うが、今後検討を行う中で最適な体制を選択していく。
	22時まで開館とある。商業施設が閉まった際の動線はどう考えているか	商業施設がクローズになっても2階へのアクセスは確保していきたい。方法については現在検討を進めている。

意見テーマ	意見要旨	市の考え方
管理運営の考え方について	館長の位置づけや決定時期、司書の身分についてはどう考えているか	職員の身分や採用の時期など具体的なことについては、今後検討を行う中で決めていくこととする。
	70万人という目標利用者数は希望的観測ではないか	他都市の事例を見て想定している。岡崎市が110万人、一宮市が110万人、豊田市が91万人。現在の豊橋市中央図書館が40万人なので、足して110万人。その需要はあると考えている。また、新しい層のファン造りを行っていきたいと考えている。
サービス内容について	自動貸出機等の導入は検討しているか	図書館システムのICT化についても検討している。4年後の開館予定なので、時代に合ったものを取り入れ、ICT化による業務の効率化により、司書等のスタッフがフロア出て対応できるようにしていきたい。
	ソムリエについて、もう少し説明がほしい	まちの中には、お店の方等専門的な知識を持っている方にソムリエをお願いしたいと考えている。ソムリエマネージャーは、ソムリエを招き関連本を紹介するが、まちなか図書館では、資料は本に限らないとして、まちの中のモノ、コト、どこで誰が活躍しているか等紹介していきたい。
意見テーマ	意見要旨	市の考え方
サービス内容について	カフェは誰がやるのか	商業施設の方でカフェをやる場合は、市はやらない。隣接の商業施設に何が入るかについては、再開発ビルに公共施設の導入を再開発ビル側から要請があったという経緯があるので、市からも図書館と相性の良いものを要求していく。
	対面朗読室、点字本は置くのか	ハード、ソフトの両面からユニバーサルデザインの視点は大切にしたいと考えている。中央図書館とのネットワークの中で、今後検討していく。
配架について	具体的にどのような雑誌を配架するのか	具体的にはまだ決まっていない。内容についても今後検討していく。
	本の並べ方が中央図書館と異なるようだが	10進法を基本とするが、まちなかの地域図書館として、特色を生かして整備する予定。中央図書館と役割分担を行いチャレンジできる場所と捉えている。
概算事業費について	最低でも30億はかかるという認識で良いか	30億円の中で抑えたいと考えている。
	内訳を知りたい	権利変換計画を作成するために権利者と調整していくものであり、詳細は現段階においては話せない。

意見テーマ	意見要旨	市の考え方
駐輪場・駐車場について	新たに整備しないという説明があったが、資料の立面図には地下に駐車場があるようだが	まちなか図書館としての駐車場は整備しないが、再開発ビル側として必要となる業務用等の駐車場を計画している。
	駐車場が少ないのは弱気だなと感じる	コンパクトシティという国の施策があるが、そこではできるだけ公共交通を使うことを想定している。まちなかのエリア全体としては駐車場は足りているので、あまり大きな駐車場を必要としない。一方で、地方都市には車での移動が不可欠なのも事実。駐車券サービス等、これから考えていく必要がある。
再開発ビルについて	再開発ビルの総事業費は	215億円を想定していると伺っている。
	商業施設は何が入るのか	まちなか図書館と相性がよいものが入ってほしいとは思っているが、まだ何が入るかは決まっていないと聞いている。
	公的機関は入るのか	現在、再開発ビルのエリア内には、窓口センター、国際交流協会、県の旅券センター、公証人役場等が入っている。担当部局とよく話をしながら、今後色々な可能性について検討していく。
	図書館部分の床は賃貸か	購入する予定である。
その他	図書館や広場だけでなく、街全体として考える必要があるのではないか ここに、プラットとどう繋がるのか、 チャレンジな試みを期待している	平成27年度より、ストリートデザイン事業が予算化されている。これは、まちなかの回遊性を高める目的があり、街全体として賑わいを創出する考え方である。道の舗装を変えるだけではなく、周辺住民、商店の方々と一緒にワークショップを行うなど、つながりを持った整備を進めていきたいと考えている。
	図書館ネットワークには入るのか	地域図書館の位置づけ。取り寄せはできるようにする。
	豊橋市は交付金等があるとすぐに飛びつくように感じる	交付金があるから飛びつくのではなく、先に政策がある。温めてきた政策を実現できるチャンスであると捉えている。豊橋市は、周辺の市町と比べても人口が多く、やるべきことが多い。
	図書館は1階が良いと思う	官と民が協力して成り立っている事業である。1、2階の図書館を入れ、3階に商業という要望は理解できるが、3階では商業テナントが入らない。再開発エリア全体で、最適となる姿を考える必要がある。
	図書館の正面玄関のイメージがないのはなぜか。	実施設計で検討していく。